

かるまい

議会だより



No.181

平成22年 5月31日



晴山小学校の開校式（4月6日）

3月定例会

○3月定例会可決議案	2～3
○3月定例会予算等審査特別委員長報告	4
○3月定例会予算等審査特別委員会	4～5
○3月定例会予算等審査特別委員長報告に対する討論	6～8
○3月定例会請願陳情・3月定例会一般質問事項	9
○3月定例会一般質問 7議員	10～16
○3月定例会追加質問 2議員	17
○臨時会可決議案	18

平成二十一年度一般会計予算 五十三億六千二百万円



第28回定例会 本会議 山本町長施政方針演説

第二十八回定例会は、三月四日から十六日までの十三日間の会期で開かれました。提案された案件は、岩手北部広域環境組合に関する案件一件、消費生活相談等事務の委託に関する案件一件、条例の一部改正五件、町道廃止一件、町道認定一件、財産の譲渡一件、平成二十一年度の各会計予算七件、平成二十一年度補正予算一件の計十八議案でした。全ての議案は予算等審査特別委員会を設置し慎重に審査を行いました。この結果は三月十六日の最終本会議で報告、すべて原案のとおり可決しました。一般質問は七人の議員が行い、町政執行についていただきました。

○平成22年度一般会計・特別会計予算の状況

会計別	当初予算	前年度当初予算	前年度比較	伸び率
一般会計	5,362,000 千円	5,549,000 千円	△187,000 千円	△3.4 %
特別会計				
国民健康保険事業勘定	1,347,141	1,329,034	18,107	1.4
老人保健医療会計	1,014	6,100	△5,086	△83.4
後期高齢者医療会計	87,300	76,600	10,700	14.0
下水道事業会計	136,596	135,977	619	0.5
介護保険会計	71,407	275,761	△204,354	△74.1
水道事業会計(支出)	499,358	542,478	△43,120	△7.9
合計	7,504,816	7,914,950	△410,134	△5.2

3月定例会 可決した主な議案

二十一年度予算を可決

一般会計、五特別会計、水道事業会計、総額七十五億四百八十一万六千円(二ページ表)の予算を可決しました。

条例

▼一般職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例

労働基準法の改正に伴い時間外勤務手当の支給割合を改定するとともに時間外勤務代休時間を新設するための関係条例を整備する。

▼軽米町立学校設置条例の一部を改正する条例
軽米小学校と円子小学校を統合する。

▼軽米町道路占用料徴収条例の一部を改正する条例
道路法施行令の一部改正に伴い道路占用料を改正する。

▼町営住宅管理条例の一部を改正する条例
町営小玉川住宅及び町営円子住宅を廃止する。

▼軽米町水道事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例
軽米町上水道事業に小軽米、晴山、長倉、小玉川、笹渡各地区の簡易水道事業を統合する。

補正予算

▼平成二十一年度軽米町後期高齢者医療特別会計補正予算(第一号)
総額に百三十五万九千円を追加し、総額を七千七百九十五万九千円とする。歳入の主なものは一般会計繰入金。

財産譲渡

歳出の主なものは後期高齢者医療広域連合納付金など。

▼財産の譲渡に関し議決を求めることについて
建て替えにより管理の必要が無くなった町営住宅について、処分費軽減のため建物の所在地権者に無償譲渡する。

その他議決を 求めるもの

▼軽米町道路線廃止に関し議決を求めることについて
軽米町道路線認定に関し議決を求めることについて
蛇口・道合線は一部を変更、蓮台野・勘丁線は新たに軽米町道路線として認定する。

▼岩手北部広域環境組合の設置の協議に関し議決を求めることについて
し尿を除く一般廃棄物の処理に関する事務を久慈市、二戸市、普代村、軽米町、野田村、九戸村、洋野

町及び一戸町の八市町村で共同処理するため、岩手北部広域環境組合を設置することについて
▼消費生活相談等事務の委託の協議に関し議決を求めることについて
消費者安全法の施行に伴

い、市町村が消費者相談等事務の管理及び執行の主体となることとなった。経費の節減と事務の効率化を図るため、軽米町、九戸村及び一戸町は、規約を定めて当該事務の管理及び執行を二戸市に委託する。

人事案件

固定資産評価審査委員



坂上 清さん(新)
(観音林南)

平成二十二年三月四日、固定資産評価審査委員に坂上清さんを任命することに同意しました。



軽米町立円子小学校

ここが聞きたい 予算等審査特別委員会

ここでは特別委員会での質疑を一部掲載しています。

問 緊急通報装置の利用者数を伺う。また、順番待ちをしている待機者はいるのか併せて伺う。

答 死亡事故が増加したことを受け、放射材付きの看板を設置するため増額した。また、交通安全協会の分会に対する活動費が減少しているため、町の交通安全対策として取り組むための補助金も含まれている。

問 納税組合への補助金は廃止も含めた見直しが必要ではないか。

答 全課税額七割ほどが納税組合による納付である。補助金については第三次行政改革大綱では平成二十年度には廃止するという計画だったが、納税組合の果たしてきた役割を考え、定期的、安定的な納税に協力してきたことから、年額四百万円の予算を取って継続している。仮に廃止とする場合には組合員の方々への説明等、一年以上の事務手続きが必要になると考えている。新たな行政改革大綱で検討していきたい。

問 有害鳥獣駆除を依頼する猟友会は年々会員が減っている。補助金を出してはどうか。

答 猟友会に対する補助金は今まで予算計上していないが、会員の減少を把握している中で、これから検討していく必要があると感じている。

問 晴山常設保育園の具体的な建設計画を伺う。

答 平成二十二年予算は定員六十名を想定し、他市町村の保育園の面積を参考に積算して計上している。場所や時期については観音林、山内地区の父兄の方と懇談会を行い、意見を勘案しながら検討していく。

問 全国雑穀サミットで軽米の雑穀は高い評価を得たが、その後の活動に繋がっていないように感じる。サミットの成果を今後どのように活用していくのか伺う。

答 雑穀振興の今後については首都圏を中心として、

問 生き生き担い手クラブの活動団体数と今年の作物の種類を伺う。

答 生き生き農園クラブ一団体のみ。今年の商品はスイートコーン、枝豆、馬鈴薯、インゲンの四品目を予定している。



予算等審査特別委員会

第28回定例会予算等審査特別委員会 委員長報告

～原案のとおり可決しました～



特別委員長 中村 光夫

平成二十二年軽米町一般会計予算等審査特別委員会に付託された案件は、岩手北部広域環境組合の設置の協議に申し渡すことを求める議案一件、消費生活相談等事務の委託の協議に申し渡すことを求める議案一件、条例の一部改正五件、町道路線廃止一件、町道路線認定一件、財産の譲渡一件、平成二十二年軽米町一般会計等の補正も含めての予算案八件、合わせて十八件の議案であり、平成二十二年三月十日から十五日までの内、土曜日、日曜日を除いた四日間をわたり慎重に審議が行われました。

委員会で行われた主な質疑を紹介すると、議案第一号の一般廃棄物を共同処理する組合の設置について、施設の規模、場所、負担金割合、ごみの減量化等について質疑がありました。当局から、協議会で検討された内容について説明があり、また、ごみの減量化については生ごみの堆肥化を含め、減量に引き続き取り組みでまいるといって答弁がありました。

また、議案第十二号、平成二十二年軽米町一般会計予算についてであります。各担当課長から重要施策及び重点事項などの説明をいただき審議しました。質疑の一部を紹介すると、二款総務費では職員採用の募集及び年齢構成について、四款衛生費では県立病院の医師確保のため地元出身者の医師養成について、六款農林水産業費では特産品の推奨を含めた農業の振興について、フォリストパーク整備について、小軽米四部落共有地登記未了問題及び農地の無断転用に伴う勧告について、十款教育費では軽米小学校の改築について、用地の借り上げ等、用地取得を全体的に検討すべきという質問等、一部大まかに紹介申し上げますが、多くの委員から活発な質疑、提言、意見、要望等が出された点を当局は真摯に受け止め、早急な対応を求められるものには迅速に対応し、今後の行政運営に反映させていきたいという答弁がありました。

審査の結果、議案第十二号平成二十二年軽米町一般会計予算に反対があり、起立採決の結果賛成多数により可決しました。議案十二号を除く他の議案は全会一致で可決しました。以上委員長報告とします。

ここが聞きたい 予算等審査特別委員会

ここでは特別委員会での質疑を一部掲載しています。

加しながら、良好な環境で仕事ができるよう進めていきたい。

問 軽米小学校と円子小学校の統合について、地域に学校が無くなることによる影響は大きい。町では子どもの教育のために複式学級の解消をうたっているが、マイナズ面ばかりではない。地元の見解を尊重してほしい。

答 これまでも地元の見解を聞き、同意をいただいで進めてきた。

問 いちい荘に派遣している職員の今後の引き上げは各名ずつ行うのか。

答 平成二十二年四名、二十三年二名の引き上げを計画している。

問 戸籍の電算化について、出張所も電算化されるのか。

答 本所のみ電算化する。

問 二十二年予算では二戸地区交通安全協会軽米分会への補助金が大幅に増額されているが、理由を伺う。

答 二戸地区交通安全協会軽米分会への補助金は、

問 ストレス等によって休職している職員がいると聞いたが、実態を伺う。

答 病気等により休んでいる職員もいる。メンタルヘルズ研修等にも参加している。

問 岩手北部広域環境組合の負担金割合について、均等割とごみ排出量に応じた処理量割だけでなく人口割も導入した方がいいのではないか。

答 負担割合については議論の末に決定した。人口割の話も会議の中で出たが、最終的に均等割一割、処理量割九割に決定した。

問 消防団四分団三部の拠点施設が予算化されているが、コミュニティセンターとしての機能もあるのか。

答 地区からの要望もあり、コミュニティセンターとしての機能も視野に入れた整備を考えている。

(議案第12号 平成22年度軽米町一般会計予算)

反対



古舘機智男 議員

議案第十二号、平成二十二年軽米町一般会計予算についての反対討論を行う。町内では倒産する企業もあり、商店街も寂れて、町民は閉塞感を持ち、先が見えない状況である。そんな中、福祉暮らし最優先の町政こそが求められている。国民健康保険税や水道料、下水道料金などは、県下の中でも高い状況にある。下水道料については、財政破綻の夕張市と同じ額だということに住民から言われた。福祉や暮らし優先の町政が求められる中で、年度の予算は本当にそのための予算だったか。

これに対し、三十二名しか応募がなかったという状況は、この有効求人倍率や失業者の状況から見て十分な応募の周知が見られたのかどうか、公正な募集のやり方だったか、また選抜方法にも疑問が持たれる。また、国保の状況を見ても、短期保険者証対象者は二十一年度は百二十七名である。軽米町の短期保険者証はその期間が短く、実質的には資格証明書と同じ状況になっている。冷たい町政といわなければならぬ。また、水道料の滞納者は給水停止するというチラシを出すというのは担当課の努力の気持ちの表れかも知れないが、町長が普段から言っている協働の町づくりと反しているのではないか。私はこのような町民に冷たい町政の根幹とした一般会計予算には反対であるので、議員各位の賛同をよろしく願いたい。

賛成



松浦 満雄 議員

今定例会に提案された全議案に賛成の立場から討論する。山本町長は平成十五年二月に就任し、市町村合併の嵐が吹き荒れる中で当面自立を宣言し、厳しい財政状況の中、町民の負託に応えて町民に身近な社会資本整備、地域福祉の向上、学校教育環境の充実、産業の振興など、きめ細やかな行政施策に取り組んできた。また、協働参画の町づくりを基本とした経費削減と効果的、効果的な財政運営を進めた結果、六億八千五百万円の経費削減を達成し、財政再建健全化法に基づく実質公債比率、将来負担比率ともに県内平均を下回る健全な財政を維持し、平成二十年度には単年度収支の黒字化をはたした。窓口の一元化や申請書類への押印の廃止、戸籍電算化システムの導入など住民サービスの向上、児童館、

小学校の統廃合、老人ホームいちい荘の社会福祉協議会への移管、課の統廃合、グループ制の導入などによる行政組織のスリム化、さらにはおりつめ未来塾により職員の意識啓発と業務能力の向上を図っている。財政改革では補助金や使用料、手数料の見直し、未利用の借地の返還や遊休財産の売却など、適正な管理を着実に推進しながら、町道整備、コミュニティバス、町民バスなど町民の足の確保、町営住宅の整備、テレビ難視聴解消対策、消防施設の整備充実などにも取り組んできた。また保育園の延長保育、放課後子ども教室、児童クラブの設置、中学校までの医療費の無料化など子育て支援策にも力を注いできた。産業振興については物産交流館の整備、雑穀生産振興、商店街賑わい創出事業、共通商品券発行事業、首都

このように、町民とともに協働することにより、町民目線に立った町政推進が行われたと確信している。山本町政も任期残すところ一年となるが、平成二十二年当初予算額は二十一年度当初予算に比較して三、四％減の五十三億六千二百万円であるが、この主な要因は児童手当や子ども手当制度の施行により対前年比九、一％の増となったものの、衛生費においては二戸地区行政組合の建設事業負担金の償還が終了した事による八、二％の減、教育費においては晴山小学

(議案第12号 平成22年度軽米町一般会計予算)

反対



山本 幸男 議員

校の完成により二十八、二％の減となったこと等が主な要因であるとの説明があり、決して町民に思いやりのない、優しくない予算ではないと確信している。また、経済危機対策臨時交付金事業等により、町民に身近な生活道、住環境整備、学校施設の整備充実、社会教育施設の維持修繕など、八十二もの事業が二十二年当初から切れ目のない公共投資により、町民が安全で安心して暮らせる町づくりが実施されていく。

で取り上げられた、町内の購買力を高めるためにレシートラリーをやってみてはどうかとの質問に答えて、今年度取り組むと施政方針演説で述べられた。小さな事に気を遣い、子供達に夢を与えながら地域経済の活性化に寄与する施策も盛り込まれた。農林業の成長産業化、食品産業の高度化、持続可能な産業の創出や、緑の分権改革推進事業によるごみ減量化対策など、新たな行政課題に取り組む予算も盛り込まれた。厳しい財政状況の中、財源の重点的、効率的な予算配分をしながら、農林業、商工業の活性化、少子高齢化対策、教育と人材育成など、町民に身近な施策と協働の町づくりを基本とした活力ある町づくりを積極的に推進する予算編成であると高く評価するものである。

また、新しい軽米町総合発展計画や行政改革大綱の策定により、新たな町づくりの指針が示されることになった。さらに、少子化対策では子ども手当の給付、晴山地区の常設保育園の建設、保育料の第二子以降の無料化、冬期間の除雪機械整備事業や住宅リフォーム事業も新たに提案されている。また、二十三年度より円子小学校が軽米小学校に統合が決まったことを受け、即座に軽米小学校の改築設計予算を組むなど、その素早い対応には驚きを隠せない。その上に、先頃開催された中高生の模擬議会

なお、町長は古館議員の主張に十分とは言えないまでもかなりの部分で町政に反映させていると私は個人的に思っており、先ほどの討論は当たらないと思っ

はじめに、ただ今は監査委員でもある松浦議員から大変と町長の施策についてお褒めの言葉があったが、監査委員という言葉は本来、行政に対して距離を置いて様々な見方をするというのが本来の姿ではないかと私は日頃考えている。町政執行者、議会、監査委員それぞれの役割があるのだから、議会もある面では一定の間隔を置く方がいいのかなと私は思っている。

一つは、町民から請願されている町道等の対応が遅れているところがあると感じた。それから、国や県から補助を受けて行う事業、第六次産業も含めて、食フェスタ、軽米町首都圏事務所の開設、交流等の事業と、今後町の活性化に期待できないのではないかと、もっと活用方法があったのではないかと疑念を持っている。

次に職員採用について、今年度は町の職員を六人採用した。軽米高校の新卒者の採用は〇人、そして募集要項では人数は若干名という形で、六人も採用するということが町民や高校生が知っていただろうかという疑念がある。三

委員長報告に対し、それぞれの立場で討論をしました。

（議案第12号 平成22年度軽米町一般会計予算）

賛成



松浦 求 議員

私は平成二十二年度の本予算案など三月定例会の全議案に賛成である。
現在、当町の置かれている厳しい財政下の状況にあっては、住民の全てが満足するような予算編成が不可能であることはどなたも理解できるのではと思う。
財源が乏しく、行政サービスの大幅な拡大はないが、そのような中にある中でも子供達の健やかな育成を図るために乳幼児及び小学生から中学生に対する医療費助成事業をなお一層進めるということで、本年一月一日から所得制限を撤廃しており、そして二十二年度予算計上も継続していくという予算案も出た。また、長年の懸案であった軽米小学校の改築に向けての設計調査費も予算計上されている。
私は現時点において必要な対策を講じつつも、将来に向けて誤りのない体系を確立したいとする姿勢の見

える予算案だと思っている。対処療法に追われ、将来に希望を持たないという意見があったが、拙速を配意し慎重に対応することを私は町長に望みたい。
古館議員は予算案から離れて町長の政治姿勢について批判されるところが多かったと思うが、そのことによつて平成二十二年度の当初予算全てに反対することは、結果として古館議員がいつも主張しておられる子供達への医療費の支援なども否定することであり、私はそのような表決の行動に對し批判をしなければならぬと思つてゐる。また、山本議員もこの二十二年度の予算案に反対されているが、審査特別委員会の最終日に、表決するとき欠席し、表決を保留しておきながら今原案に反対とする姿勢に對し、議員として表決する正当な姿勢でないということをお願いしたい。

反対



茶屋 隆 議員

議案第十二号、平成二十二年度軽米町一般会計予算に反対の立場で討論する。
町長は就任以来、協働参画による町づくりを進め、無投票再選で山本町政二期目がスタートし、三年が過ぎた。町民に約束された五つの項目を大きな柱として町政を執行してきたが、いまだ山本カラーというのが見えない。また、町長に就任以来七年、集大成ともいふべき二期目の残された一年で何をやるのか、施策的にこれといって目を引くようなものもない。
平成二十年、二十一年と二年間実施された、総事業費一千六百八十八万六千円の地域創成事業に関しては、人件費に関しては全く無駄だったと言っても過言ではないと思う。今年も別の事業だが人件費として百八十万円を計上されており、それはいかげなものである。

また、同僚議員の雇用対策についての一般質問の中で、「課長級が退職勧奨で早期退職されている。また、非常に厳しい雇用状況の中、若者が働きたくても働く場所がない。そういったときに町長の奥様が役場職員であるということはどうか」という質問に對し、町長は答弁しなかった。町長はいつも町民の声を聞いて、と言っているが、本当に町民の目線に立っているのか。本当に町民のことを一番に考えるなら、町長として率先垂範を町民に示すべきではないか。そういった政治姿勢が必要だと思う。それを示さず実施される施策については賛成できない。

以上、反対の討論とする。議員各位の賛同をお願いしたい。

みなさんからの
請願
と
陳情

3月定例会

採
択

▼「協同労働の協同組合法（仮称）」の速やかな制定を求める陳情

請願者

日本労働者協同組合連合会 センター事業団 盛岡中央事業所
所長 船越 謙

要
旨

住民による地域振興、就労創出を推進するため「協同労働の協同組合法（仮称）」の早期制定を求める意見書を国に提出いただきたい。

▼核兵器の廃絶と恒久平和実現に関する意見書の決議について

請願者

平和市長会議会長

広島市長 秋葉忠利
同副会長
長崎市長 田上富久

要
旨

核兵器の廃絶と恒久平和実現に向けた意見書を決議いただきたい。

請願者

農民運動岩手県連合会 会長 久保田彰孝
紹介議員
中村光夫、大村税

要
旨

従来のEPA（経済連携協定）・FTA（自由貿易協定）推進路線を見直し、アメリカとのFTA交渉を行わないよう、国及び関係機関に意見書を提出いただきたい。

▼最低賃金の抜本改正と安定雇用の創出、中小企業支援策の拡充・強化を求める意見書

請願者

岩手県労働組合連合会 議長 鈴木露通
二戸地域労働組合連合会

議長 堺田博幸
紹介議員
山本幸男、松浦満雄

要
旨

低すぎる最低賃金を大幅に引き上げ、働く貧困層をなくすため、国に對し意見書を提出いただきたい。

請願者

岩手県社会保障推進協議会 代表 高橋八郎
岩手県民主医療機関連合会 代表 尾形文智
紹介議員
山本幸男、上岩紀男

要
旨

高齢者が安心して必要な医療を受けられるようにするため、後期高齢者医療制度の廃止を求める意見書を関係機関に提出いただきたい。

3月定例会

通告した質問事項は次のとおりです 一般質問 7議員

平成二十二年三月八日
質問議員四名

○中村 光夫 議員

- ・児童及び生徒医療費給付について

○茶屋 隆 議員

- ・国体開催について
- ・町政について

○大村 税 議員

- ・地域資源循環型農業振興について

○前田 泰穂 議員

- ・ごみ減量化のさらなる取り組みについて
- ・職員の研修の充実について
- ・公金等の管理について

平成二十二年三月九日
質問議員三名

○細谷地 多門 議員

- ・障がい者福祉について
- ・畜産振興について

○古館 機智男 議員

- ・持続可能なまちづくりについて
- ・軽米高校の今後について

○泉山 優 議員

- ・雇用対策について
- ・事故防止対策について



茶屋 隆 議員



ハートフルスポーツランド野球場とアクセス道路

また、当町には旅館が一軒しか無く、四十人以上の宿泊客はまかなえない。青少年ホームは確かに古い施設ではあるが、多少手を加えれば利用できるのではな

【茶屋議員】平成二十八年に開催される若手国体では、久慈市、洋野町、九戸村、葛巻町、岩泉町、普代村、野田村、そして軽米町において軟式野球が開催される。当町のハートフルスポーツランド野球場は他市町村の施設に比べても見劣りしない立派な球場であり、過去に大きな大会が開催され、野球場の施設としては高い評価だったと聞いている。

問 岩手国体に向けハートフルスポーツランドへのアクセス道路の拡幅をしてはどうか
答 農道だったものを町道に認定し整備していきたい

計画は立てていないが、平成二十二年度に軟式野球の中央競技団体正規視察が予定されており、町のスポーツ振興と活性化も含めながら、財政面等考慮し検討したい。

【山本町長】現在、国体招致に向けて臨時交付金事業を活用し、野球場内の暗渠改修と内野の土の入れ替え、外周フェンスの塗装工事などの整備を進めている。ハートフルスポーツランドに連絡する道路は、現在は農道であるが、本定例議会に町道認定議案の案件を提案しており、今後は町道として管理を行いながら、車両の安全・安心な通行が出来るよう整備してまいりたい。

にも、また、地元で開催される各種大会や野球場、多目的広場等を使った合宿等の宿泊のため、水洗化してはどうか。

【山本町長】町政については、五つの大きな柱を中心としながら進めてきた結果、経費削減を達成し、財政健全化法に基づく実質公債比率、将来負担比率ともに県内市町村の平均を下回り、健全な財政を維持している。このほか児童、生徒の減少等による児童館、小

【茶屋議員】町長は就任以来、協働参画による町づくりとして農林業の活性化、商工業の活性化、少子高齢化対策と福祉の充実、教育と人材育成の充実、行政改革の断行の五項目を大きな柱として町政を執行してきたが、いまだ山本カラーというのが見えてこない。これまで五項目についてどのように取り組んできたのか。また、町長に就任以来七年、二期目の残された一年間で何をやるのか伺う。

問 町長は二期目最後の一年に何をやるのか伺う
答 総合発展計画に新しい計画を策定する

【山本町長】先程述べたことを着実に実行しながら、町民の理解と協力を求めてまいりたい。

【茶屋議員】町民に出来ることは町民でやり、できるだけ行政に頼らず経費節減をして、それによって税額を下げるのか、そういったことに取り組んでほしい。

ちい荘の民間への外部委託などをはかってきた。任期残すところ一年となった今、五つの柱を基本としながら、軽米町総合発展計画に代わる新計画を町民の皆様とともに議論し、策定を進めていく。



県立軽米病院



中村 光夫 議員

問 医療費助成の対象を町外医療機関にまで拡大してはどうか
答 軽米病院と協議しながら検討したい

【中村議員】医療給付助成事業は、小学校の児童及び中学校の生徒に対して医療費の一部を給付し、これらの児童及び生徒の健康を保持し福祉の増進に資することを目的として、平成二十一年一月から県内の市町村に先駆けて、山本町長の決断により実施されたものである。実施にあたり、町長の決断については敬意を表するとともに、その政治姿勢は高く評価するものである。医療給付助成事業は発足当初は所得制限もあつたが、平成二十一年十二月議会に条例改正案が提案され、平成二十二年一月一日から所得制限も撤廃され、制度の充実が図られた。しかし、まだ町内の医療機関で受診した場合に限るという条件が付けられている。この制度は県内でも先駆的で、他の市町村からも注目されている事業であると思う。私はこの医療給付事

【山本町長】現在町では、いつでも安心して医療が受けられ、次代を担う子供達が健やかに育っていくような施策、いわゆる子育て支援として乳幼児及び小学生・中学生に対する医療費助成事業を実施している。これまでの経過として、乳幼児については、岩手県の医療費助成事業を導入しながら医療費の受給者負担分を町が全額補助するという内容である。小学生及び中学生まで制度拡大する医療費助成事業については、軽米町PTA連合会等の代表者からの陳情や町議会で議論を重ね、平成二十一年一月一日より新規事業として実施してき

【中村議員】財政的な問題や地元の中核医療機関の役割をはたしている県立病院の診療科目の充実等、いろいろな事情があるかと思う。しかし、現在の医療は細分化され、専門的で高度化されている状況である。町外の専門医の診療を受け

業をさらに充実させるためにも、町内の医療機関に限るといふ制限を緩和する方向で検討すべきと思う。町内にない診療科を受診する場合、あるいは自己の都合によらないで医療機関の指示、つまり主治医の指示により町外の医療機関を受診した場合には給付の対象とすべきと思うが、町長の考えを伺う。

小学生・中学生までの新しい医療費助成事業を継続していくためには長期的な財源確保が必要であることから、一定の所得のある方には医療費の負担をお願いしてきた。

【山本町長】おっしゃることは私も理解できるので、財政状況を見ながら早期の実現、あるいは制度の拡充に向けて努力してまいりたい。

る方も非常に多いのではないかと。また、救急車等で搬入された場合だと思いが、重傷・重篤により町外の総合病院に搬送されるケースも多いと思うし、このような場合は医療費も非常に多額になると思う。国保の診療状況等から勘案すると、現状でもすでに受診対象者の半数くらいは町外の医療機関を受診しているものと思われる。このような観点から、将来を担う児童生徒の健康を守り、家庭の経済的負担の軽減を図るためにも、受診制限の撤廃、もしくは制限の緩和をはかるべきと思うので、是非実施の方向で検討できないものか。



前田 泰穂 議員



二戸地区クリーンセンターを視察（2月8日）

【前田議員】 久慈・二戸地区の岩手北部広域環境組合の負担金は、ごみの排出量が密接に関係してくることから、至急ごみの減量化

【前田議員】 ①当町での生活系ごみの排出量は県下で何番目くらいか伺う。②ごみの減量化に対する町の取り組みを伺う。【竹下町民生課長】 ①一日一人あたりの県内の平均排出量は一千三十三グラムであるのに対し、当町は七百三十グラムで、少ない方から八番目の位置にある。②紙類、プラスチック類、ペットボトル類を徹底的に分別することで減量化が大きく進むと考えている。それには、地域住民の協力が不可欠である。ごみ分別の講習会等を開催し、より一層の減量化対策に取り組む。生ごみ対策としては、平成二十二年度にごみリサイクルモニターを募集して生ごみ処理機を貸し出し、生ごみの減量化に向けた実証試験に取り組む。

問 ごみの減量化に向けた取り組みを伺う
答 生ごみの堆肥化や不燃ごみのリサイクルに取り組んでまいりたい



町営牧野



大村 税 議員

問 バイオマスタウン構想の進捗状況を伺う
答 飼料用米の生産拡大を推進するなど、循環型農業の確立を図っていききたい

【大村議員】 平成二十年に策定されたバイオマスタウン構想について、昨年三月の議会ではプロジェクトチームを編成し、委員を委嘱して調査検討し、具体的計画を策定し推進するとの答弁をいただいたが、具体的な計画が見えてこない。現在までの進捗状況とその内容を伺う。食と地域の再生強化を図り、地域資源を活用した新産業の創出や農山漁村に豊富に存在するバイオマス資源エネルギーを活用した町の活性化についてどのように取り組むのか。現在はリサイクル率も増加していることから資源循環型農業、循環社会の整合性を大にして、プロジェクトとして推進するべきかと思っている。たとえば、畜産を推進する上で必要不可欠な堆肥化処理の促進により循環型農業形成はもろろんのことであるが、町の八十%

以上が森林原野であり、それらも重要なエネルギー源であると思う。間伐材や倒木材を利用することにより死にかけている森林をよみがえらせ、森林環境保全にもなり、クリーンエネルギー産業の振興にもつながるのではないかと思う。焼却することにより蒸気熱や湯熱が発生する。そのエネルギーを電気やハウス園芸栽培、入浴施設等へ活用してはどうか。

【山本町長】 平成二十年三月に策定した軽米町バイオマスタウン構想は、資源使い捨ての社会からバイオマス活用による資源リサイクル社会への転換を図り、資源循環型社会の構築をめざすものであり、バイオマス活用方法として鶏糞・牛糞・生ごみ・稲わら等の堆肥への利用及び鶏糞等処理にかかる廃熱処理などを促進することとしている。現在行われている取り組みは、牛糞については各農家により堆肥化され、自家用または稲わら交換等により水田、畑地に還元されている。

鶏糞及び豚糞については民間事業者等により発酵、炭化、焼却処理され、多くは土壌改良材や水田等の堆肥として食用米の他、全国に先駆けて取り組んだ飼料用米の生産にも利用され、生産された米はプロイラーや豚の飼料として利用されており、稲わらについても家畜飼料等に利用されている。

【山本町長】 昨年では軽米町バイオマスタウン構想を推進する一環として、特に発生量の多い鶏糞処理の際に発生する熱エネルギーの農業生産への活用の可能性

や、バイオマス発電の可能性、生ごみの減量化、バイオマスや廃棄物などを高温・高圧で処理し、熱エネルギーとして利用する事への可能性等についても調査・検討することとしている。

【大村議員】 この緑の分権改革施策を最大限に活用し、活力ある取り組みをしていただきたいと思う。今色々取り組んでいる状況は把握したが、もっと踏み込んで充実した、スピード感のある具体計画を国、県に上申して、実施認可を速急に取れるような対応をしていただきたい。【山本町長】 これまでも着実にやってきたつもりだが、これまで以上に頑張っていきたい。

【前田議員】 久慈・二戸地区の岩手北部広域環境組合の負担金は、ごみの排出量が密接に関係してくることから、至急ごみの減量化

【山本町長】 ①軽米町職員育成推進計画に基づき岩手県市町村研修協議会が実施する研修会等に派遣研修を行い、職員の能力、資質の向上に努めている。平成二十一年度は千葉県千葉市の市町村職員中央研修所で四十一名の職員が受講している。接遇研修として民間へも派遣した。②平成十七年に民間講師を迎えて、おりつめ未来塾を開設している。内部研修

計画を立てて取り組むべきだと思いが、町長の考えを伺う。【山本町長】 生ごみの堆肥化、粗大ごみ、不燃ごみのリサイクル等、早期に減量対策等を立ててまいりたい。

問 職員研修場の課題を職員の職場で解決するのはどう
答 平成十七年から塾を開設している

【前田議員】 ①職員研修に対する基本的な方針を伺う。②町の課題について、職員がみずから解決策を考える場を設置してはどうか。

【前田議員】 町で事務局を担当し、かつ会計処理をしている任意団体の数を伺う。それらの金銭の取り扱い実態、会計処理、チェック機能 監督責任はどうなっているのか伺う。

【山本町長】 昨年は民間企業のホテルに派遣して研修をさせた。今後も研修を充実させていきたい。【野中総務課長】 昨年の十一月一日から約一ヶ月間、二戸パークホテルに職員を一名派遣し接客事業を行った。こういった取り組みは今後も続けてまいりたい。【前田議員】 民間での研修について、詳しい内容を伺う。

【野中総務課長】 町で事務局を担当し、金銭処理を行っている任意団体は三十九団体あり、その中で課長等が金銭支払いをチェック・決裁している団体は二十八団体、担当者が処理後に団体の監査員から会計監査を受けている団体が八団体。残りの三団体は実行委員会を立ち上げ、総会で監査員の監査を受けた後、決算報告をしている。いずれも町または団体の管理の下、適正に処理されている。公金と同様に任意団体の会計においても、その取り扱いには最善の注意が求められるっており、今後も金銭の取り扱い等の事務処理には事故等の無いように十分な注意を払ってまいりたい。

【野中総務課長】 通帳と印鑑を別々に保管するようなチェック体制にできるよう進めてまいりたい。なお、国からも公金等の取り扱いについての通達が出ており、それに基づいて適正な処理を進めていく。



古舘 機智男 議員



県立軽米高等学校

問 新年度予算編成の方針を伺う

答 財政健全化に努め、限られた財源を有効に活用していく

【質】古舘議員 町内企業の倒産や誘致企業の工場閉鎖があり、基幹産業である農業も将来の展望が見えず厳しい状況にある。地域内の経済循環を高めた持続可能な町づくりが求められているが、町づくりの展望について伺う。

【答】山本町長 地域経済の活性化を図るため、町が発注する工事は原則的に町内業者を指名し、町内需要を進めている。

また、中高生による模擬議会で提言があった、町内三店舗以上で買い物し、そのレシートを貼り応募すると商品券が当たるキャンペーンについても、実施の方向で商工会と協議している。

その他、町内で生産された農産物の給食の食材としての推進、当町が全国に先駆けた飼料用米の生産、雑穀を活用した冷凍加工食品の商品化に向けた試行、盛岡農業高校生が長倉の圃場で生産した雑穀を使用し、一野辺製パンと共同開発した雑穀パンの商品化、J A

問 障がい者の社会復帰のための中間施設の整備について伺う

答 施設整備を進めるとともに相談支援も行っていきたい



細谷地 多門 議員

【質】細谷地議員 ①本町における精神障がい者の現状と今後の取り組みについて伺う。

②退院から社会復帰までの中間施設であるグループホームやケアホーム等の施設が当町にはない。社会復帰に向けた就労の場の確保について伺う。

③今後の障がい福祉に対する基本的姿勢を伺いたい。



毎年4月3日に開催される馬の競り市

【答】杉浦健康福祉課長 ①当町の精神保健福祉手帳所持者数は、平成十三年は二十四名、平成十四年は四十名、平成十五年は五十二名、平成十六年は六十二名、平成二十一年三月三十一日時点では六十六名となっている。年々増加の傾向にあり、知的障がい者も同様である。県内各施設の調査によると、平成二十年七月一日時点で、本町の福祉施設入所者は三十七名となっており、精神科病院の長期入院患者

数が十名となっている。

②福祉施設入所者三十七名の内、四名が地域生活への移行を希望している。本町にはグループホームやケアホーム等がないため、今後はそれらの整備とともに地域へ移行するまでの相談支援が必要と考えている。福祉施設から一般就労した実績はない。今後は関係機関と連携し、一般就労の実現に向け努力していく。

【答】山本町長 ③障がい保健福祉関係者及び関係機関と連携した相談活動により施設整備や地域移行の推進、就労支援の強化を進めていく。

問 市で行われる馬の競りイベントはどうか

答 協議した主催者、検討したい

【質】細谷地議員 ①衰退の一端をたどる馬産地としての軽米の現状と町の認識を伺う。

②毎年、春に馬のせり市が本町の家畜市場で行われているが、そこで馬に関心を持ってもらうイベント等

を行ってはどうか。

③馬を使っている昔懐かしい農作業の復元によって観光PRができないか。

④馬産地軽米の復活に関して、今後の行政の関わり方、姿勢を伺いたい。

【答】下畑産業振興課長 ①昭和三十年の飼養戸数は九百四十六戸、飼養頭数一千二百七十三頭であったが、昭和四十年には五百八戸で五百四十二頭、昭和五十年には八十二戸で百二十二頭と激減し、現在では六戸十六頭となっている。馬は、農業生産のみならず伝統文化、福祉、教育等においても大きな役割を担っていることから、今後の馬産振興について検討すべきものと考えている。

【答】山本町長 ②競り市の際に会場が非常に混み合い、場所の確保や参加者の安全対策、市場運営との業務調整が必要と思われるので、主催者である九戸畜産農協や軽米町馬産振興会と協議し、検討していきたい。

③現在の農用馬は産肉量の多いものに改良されているため、農作業が可能かどうかの確認や農具の確保、馬の調教などを検討する必要があると考えている。また、農用馬による農業だけでなく、グリーンツーリズムなども含めて検討したい。

【答】山本町長 かつて軽米は雑穀と馬が一体となった農業をしてきたという歴史もある。それを活用できるような方法を検討しながら、軽米の文化、伝統の保持を支援してまいりたい。

【答】山本町長 多くの町民の方々から参加して議論いただきながら、しっかりとしたものを作り上げていきたい。

【答】野中総務課長 総合発

展計画策定にあたっては、町内の各団体の皆さんや公募によるメンバーで構成された総合開発審議会を中心として基本的なところは進めていきたい。それに加えて町民の皆さんからの意見等をお聞きするために、ワーキンググループ等の設置についても検討し、地域で説明してご意見を聞くといった形で進めてまいりたい。

問 高校教育について県の基本方向を伺う

答 地元高校の充実を要望したい

【質】古舘議員 高校教育の基本的方向は、一学級四十人、そして四クラス以上六クラスまでという基準はそのままに、地域と協議しながら進めることになっている。一般の地域説明会の前に教育長等から意見を聞く場があったと思うが、教育長が県の基本方向につ

て、どのような要望なり意見を述べたのか伺う。また、少人数学級等についてどのような見解を述べたのかも伺いたい。

【答】中野教育長 二戸地区で地域説明会が行われて、管内の四市町村から市町村長、教育長、校長会の代表等が参加して意見を表明した。教育の質の保証、地域振興のための人材育成のために学級定員を三十五人として、適正な学校規模に一年三学級以下を含めて柔軟に対処すること、多様な進路希望の達成と教育機会の保証のために、正教員の適正な配置をすること等を基本としてきたが、このことを今後も訴えてまいりたい。

教育委員会としても今後の地元高校のあり方について、保護者、教育関係者並びに町民の声に広く耳を傾け、第二次県立高等学校整備計画の動向を注視しながら地元高校の充実と振興策を要請してまいりたい。

町長の施政方針演述に対し、二名の追加質問がありました。

- 茶屋 隆 議員
- 前田 泰穂 議員

- ・軽米小学校建設について
- ・施政方針演述について

答 山本町長 軽米小学校は建築から四十五年を経過している。これまで各種改修工事を実施してきたが、平成十五年度に実施した耐震診断の結果から補強が必要と診断されていることや、施設全体の老朽化から抜本的な改善が求められている。

建設中の晴山小学校が施設整備に一定のめどが立ったことや、晴高小学校からの児童の統合、さらに昨年度末に円子小学校の統合に関する検討委員会から軽米

問 茶屋 隆 議員 平成二十二年軽米町一般会計予算に学校建設費委託料として六千二百九十四万四千円が計上され、承認されれば軽米小学校改築工事基本実施設計等委託事業が実施されるが、軽米小学校建設について現時点での具体的計画を伺う。

小学校への統合について決断をいただき、平成二十三年度に統合する運びとなったことなどから、早急に施設整備に取り組むこととしている。

なお、具体的な計画については、基本的には道路改良等を重ねてきた現在の場所に建設することとし、新しい校舎、体育館を建設する方向で進めてまいりたい。

茶屋 隆 議員

問 軽米小学校建設の具体的計画を伺う

答 現在の場所に新しい校舎、体育館を建設する予定である

前田 泰穂 議員

問 平成二十二年予算はもつと積極的な予算編成を行うべきではないか

答 財政状況は依然として厳しく、限られた財源の重点的・効率的な配分に努めた

問 前田 議員 施政方針演述の中で、新年度予算は昨年度比三、四％減の五十三億六千二百万円となっている。岩手県の予算は六、一％増の六千九百八十七億六千七百万円で、県内でも増加の市町村が多い中、軽米町の予算は消極的すぎると思う。

軽米町はどちらかというと健全財政の部類にはいるのではと私は思っている。財政調整基金も一時に比べ持ち直しており、また例年決算において一億数千万円の剰余金が出ている。もつと積極的な予算を組み、特に少子高齢化に対する施策を行うべきではないか。

新年度予算において今年が目玉はこれだというものがあつたら伺いたい。

等、予算編成の改革が進められることなどにより、人件費などの一般行政経費の各分野において抑制を図ることとされており、当町の試算では地方交付税等の大幅な増額は期待できず、財政状況は依然として厳しい状況であると考えている。

このことから、当初予算の編成に当たっては、施策等の見直しと経費の節減に徹しながら、限られた財源の重点的・効率的な配分に努めた。

この結果、平成二十二年一般会計当初予算総額は、二十一年度当初予算総額に比較して三、四％減の五十三億六千二百万円とした。

主な要因としては、民生費では児童手当や子供手当制度の施行等により九、一％の増となり、衛生費では二戸広域行政事務組合への償還終了等による八、二％

の減、教育費では晴山小学校建設の改正等による二八、七％の減となっている。

新年度予算の目玉については、へき地保育所、児童館の統合による常設保育園の新設や同時入所園児の第二子以降の無料化、老朽化しており懸案であった軽米小学校の平成二十三年度の工事着工に向けた設計・調査、町内プロードバンドゼ口地域解消事業、軽米中学校武道場新築工事、緑の分権改革推進事業として町の主要な産業であるブローイラー、畜産などの廃棄物のエネルギーとしての活用方策や家庭等から排出される生ごみの一般廃棄物の減量化、エネルギー活用方策等についての調査・実証等の取り組みを進めていく。



役場の公用車



泉山 優 議員

問 平成二十二年まで職員数を百六十五人とする定員適正化計画の現状について伺う

答 平成二十二年当初で百五十六人となる見込みである

問 泉山議員 ①平成二十二年に職員百六十五人とする定員適正化計画の現状と今後の採用計画について伺う。

②現在の町の誘致企業の数と従業員数を伺う。

③誘致企業以外の雇用状況と、企業誘致をどのように進めてきたか伺う。

答 野中総務課長 ①平成二十二年四月時点の職員数見込みは百五十六人であり、削減目標人数に達している。今後は新たな定員適正化計画を策定し、適正な定員管理に取り組んでいきたい。

問 山本町長 ②昨年に二社が閉鎖、約五十人の方が解雇となっており、平成二十一年十二月末時点の誘致企業数は五社、従業員数は五百七十七人となっている。

③不況と併せ、事業主の高齢化や後継者不足等により廃業し、商工会の会員を脱退する事業所も出ている。

企業誘致活動については専任の担当者を配置し、企業への空き工場等の紹介や首都圏で開催される企業誘致フェアでのPR活動等に取り組んでいる。

県北八市町村、二振興局からなる岩手県北産業活性化協議会でも企業訪問、PR活動に取り組んでいる。

問 泉山議員 町内には働きたくても働けない若者も多く、役場職員に退職勧奨を行っている中、町長の奥様は役場職員である。

厳しい雇用環境の中、町長自ら雇用の拡大に積極的な姿勢を示すべきではないか。

答 山本町長 いちい荘や産業開発の雇用を増やし、今年度は六人の職員を採用した。

問 交通事故防止対策について伺う

答 交通安全の徹底を図るための周知徹底している

問 泉山議員 ①ここ三年で四件の事故が発生している。

事故防止について、どのように指導しているのか。

②ごみの収集車の事故がここ三年で二件起きているが、管理体制はどうなっているのか。また、ごみ収集業務がどのような指揮系統のもとで行われているのか。

答 野中総務課長 ①課長会議等、機会あるごとに職員に対して事故防止の周知徹底をはかっている。

また、軽米町公用車運行管理規程を策定し、公用車を運行する課等に運行管理者、公用車取扱責任者を配置し、点検整備の管理責任と適正な運転のための知識技術向上を図っている。

答 竹下町民生課長 ②町民生課でひと月ごとに収集計画を立案し、月末に翌月の収集の打合せを行い、収集実施日には毎日収集状況等を収集員が報告し、合わせて翌日の収集計画について打合せを行っている。

朝の点呼の際に町民生課からの指示事項と当日の収集計画等を伝達し、各収集職員は安全確認した上で収集作業に従事している。

これまで担当課長と担当

問 山本町長 センター長から報告を受け、嚴重注意した。

答 泉山議員 どういった対処、処分をしたのか伺う。

答 山本町長 町の職員懲戒処分等の基準に基づいて処分している。

問 泉山議員 去年の十月頃、ふれあいセンターのデイサービス業務で、センター到着後に利用者の降車を確認しなかった事があったと聞いたが、詳細と対処を伺う。

答 鎌戸健康ふれあいセンター所長 利用者をバスでふれあいセンターにお連れした際に一人の降車確認を怠り、そのままバスが洗車に行ってしまった。すぐ連絡して追いかけて、その後すぐ危険防止委員会でマニュアルの見直し等を行った。

議会の傍聴に出かけて見ませんか

議会はだれでも自由に傍聴することができます
議会の傍聴は、町政を知る良い機会です

定例会は年4回（3月、6月、9月、12月）開かれます



新築された晴山小学校の視察（3月8日）

臨時会で 決まったこと

その他議決を 求めるもの

▼損害賠償の額の決定に
関し議決を求めることにつ
いて

町の職員が運転中に起こ
した二件の事故について和
解し、これに伴う損害賠償
の額を決定する。

百四十万六千円とする。
歳入の主なもの国庫補
助金、基金繰入金など。
歳出の主なもの療養諸
費、共同事業拠出金など。

第29回臨時会

（三月二十五日議決）

補正予算

▼平成二十一年度軽米町一
般会計補正予算（第九号）

総額から一億四千七百四
十五万七千円を減額し、総
額を八十五億三千七百七十
六万一千円とする。

歳入の主なものは基金繰
入金、町債、県支出金など。
歳出の主なものは社会福
祉費、小学校費、総務管理
費など。

歳入の主なものは介護給
付費収入、他会計繰入金な
ど。
歳出の主なものは施設管
理費、居宅サービス事業費
など。

▼平成二十一年度軽米町下
水道事業特別会計補正予算
（第三号）

総額から八百九十二万円
を減額し、総額を一億二千
八百七十九万九千円とする。
歳入の主なものは他会計
繰入金、町債など。
歳出の主なものは公共下
水道整備費、公債費など。

▼平成二十一年度軽米町国
民健康保険特別会計補正予
算（第四号）

総額に三千三百六十八万
円を追加し、十四億三千六

補正予算

▼平成二十一年度軽米町一
般会計補正予算（第八号）

総額に四億八千八百四十
八万円を増額し、総額を八
十六億八千五百二十一万八
千円とする。

歳入の主なものは国庫補
助金、県委託金、町債など。
歳出の主なものは小学校
費、総務管理費、道路橋り
よう費など。

第27回臨時会

（二月二十三日議決）